

苫小牧市教育委員会会議録

会議区分	苫小牧市教育委員会 第 3 回 定例委員会
日時	平成27年3月23日 自 15時30分 至 16時28分
場所	市役所本庁舎第2委員会室
出席委員	委員長 上原 毅 委員 佐藤 郁子 委員 佐藤 守 委員 植木 忠夫 委員 和野 幸夫
欠席委員	
会議録署名委員	佐藤 郁子 委員
会議録作成職員	総務企画課総務係主事 前田 亜矢子
事務局職員	教育部長 澤口 良彦 教育部次長 荒物屋 貢一 学校教育課長 木村 賀津彦 総務企画課長 斉藤 拓也 科学センター囑託館長 相内 宏司 指導室指導主事 仲見 真樹 学校教育課学務係長 高坂 博幸 総務企画課総務係長 下濱 辰哉 総務企画課総務係主任主事 小坂 喜子 総務企画課総務係主事 前田 亜矢子
会議案件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1 委員会開会の宣言（上原委員長）・・・15時00分
2 会議録署名委員の指名（佐藤郁子委員）
3 会議録の承認
（上原委員長） 第2回定例教育委員会（平成27年2月9日開催）の会議録について、何かご質疑ございますか。
（一同「なし」の声）
（上原委員長） 私の方から1点だけなんです、会議録の表紙は別として次のページから1ページだとしますと10ページになろうかと思いますが、指導室長の答弁の中で、下から11行目に「新規授業」というふうに書いてありますが、おそらく「新規事業」の間違いではないかと思えます。正式にインターネット等で公開されると思っていますので、もし間違いであれば訂正していただきたいと思えます。
－会議録どおり承認－
4 教育長の報告
（教育長） 報告をさせていただきます。
初めに、各教育委員におかれましては、小・中学校卒業式へのご出席ありがとうございました。各小中学校も明日3月24日に修了式を行い、人事異動を含めて新年度に向けた体制づくりに入ります。

<p>前回、2月9日の第2回定例教育委員会以降の行事、事業について報告をいたします。</p>
<p>2月13日に第2回学校給食会理事会を開催し、平成27年度学校給食実施方針、事業計画について了承いただき、平成27年度予算審査特別委員会へ予算内容を資料として提出をしております。また昨年度のように消費税改定のような懸案も無く会議は終了しております。</p>
<p>次に、第19回市議会定例会が2月20日より3月13日まで開催されました。平成27年度教育予算ほか「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正に伴う関係条例の改正議案も無事議決をいただいております。議会審議の内容につきましては別途ご説明いたします。2月28日に美術博物館で「美術博物館大学講座卒業式」を行っており、今年度は104名の卒業でありました。3月18日に市民文化交流センターで市長、市議会副議長、町内会連合会会長を来賓に苫小牧市長生大学の卒業式が開催され研修科27名、本科40名が卒業されました。</p>
<p>次に議会関連であります。2月26日と2月27日に代表質問があり、3月3日から10日まで予算委員会が開催されました。代表質問は各会派の総括的な質問になりますが、6名の会派代表から、「教育委員会制度改革」について、「小中学校規模適正化地域プラン」について、「特別支援教育、山なみ分校」について、「教育環境改善（沼ノ端地区）」についてなど、質問をいただいております。</p>
<p>また、3月4日から11日までの予算委員会では、「美術博物館特別展・企画展」について、「アレルギー対応食」について、「小中学校規模適正化地域プラン」について、「校務用パソコン」について、「特別支援教育」についてなど、質問をいただいております。教育予算関連では、11名の委員から多くの項目について質疑がありました。内容については、後日資料を作成したいと考えております。議会審議の内容が多岐に渡り、教育行政への関心の高さを改</p>

めて示しております。

次に、学校人事につきましては、会議次第7その他（1）で別途説明させていただきます。

また、教育委員会事務局関係の市役所人事であります、議案第6号で別途担当から説明させていただきます。

次に、新聞報道にもありました「感染性胃腸炎」についてであります。お手元に文教経済委員会で報告した資料を配付しております。全体的には縮小に向かっておりますが、ノロウイルスの体内保菌期間は1ヵ月とも言われておりますので、現在も全校調査を実施し、その状況の把握に努めております。このような状況は今後も続くと思われますので注意深く見守る必要があると考えております。

以上で、教育長報告といたします。本日はよろしく申し上げます。

（上原委員長） 何かご質問等ございますか。

（一同「なし」の声）

5 議 案

第1号 苫小牧市教育委員会事務局の組織等に関する規則等の一部を改正する規則について

（教育部次長） 一苫小牧市教育委員会事務局の組織等に関する規則等の一部を改正する規則について説明一

（上原委員長） 質疑に付します。

(佐藤守委員) 総務課の方々の仕事が増えるということで、人力的な配置で1人増えるというような計画はあるのでしょうか。
(教育部長) 補助執行の部分に関しての業務ということでの増員は、予定しておりません。
(佐藤守委員) ありがとうございます。
(上原委員長) 他にございますか。それでは、質疑がないようですので、原案どおり決定することよろしいでしょうか。
(一同「はい」の声)
—原案どおり決定—
第2号 平成27年度 苫小牧市学力向上アクションプランについて
(指導主事) —平成27年度 苫小牧市学力向上アクションプランについての説明—
(上原委員長) 質疑に付します。
(佐藤守委員) まず、最初の学力向上推進チームの1番目のところのSV（スーパーバイザー）についてなんですが、各小中学校への均等な配分というか、どのような形で配分を考えているのかお聞きしたいのと、それから2番目のところで、COT-PLAN、前回ですと学習指導に関する連携プランということで、日本語を訳した英語の言い方をされていたと思うんですが、これは、あまり皆さん知らない言葉であれば、日本語プラス括弧書きという形の方が分かりやすいのではないかなと思います。
3つ目が、「苫小牧学びの3か条」が普及されていないと思うので、もし3か条を箇条書きにできるのであれば、入れていただいた方がいいのではないかなと思います。
(指導主事) まず、学力向上推進チームの小中学校への配分等ということですが、

<p>授業改善スーパーバイザーにつきましては、小学校の教員4名です。巡回指導教員活用事業の4名の教員を充てる予定でございます。学力向上研究委員につきましては、小学校4名、中学校4名です。中学校につきましては、国語を専門とする先生2名、数学を専門とする先生2名としております。次のL I Tですが、これにつきましては、小学校10名で、国語を主に取り組んでいただく先生5名と算数に取り組んでいただく先生5名、中学校につきましては6名で、国語について取り組んでいただく先生3名、数学3名というふうにしております。続いて、2つ目のC O T - P L A Nについてですが、昨年度からC O T - P L A Nということを示しまして、いつ、どのような時期に、どんな事を小中連携で行っていけばよいかというところで、小中連携という言葉は良くあるんですが、学校の方で何をしたらいいか、いつやったらいいかという声があるので、このようなところを明確にしたものでございます。各学校で、うちから提示したものを学校なりにちょっと工夫して、各学校のプランを作成するということになりますので、まずは学校に対して働きかけさせていただきたいと思えます。次に3点目、学びの3か条についてですが、平成27年度からの3か条設定ということですので、今具体的なものを考えておまして、なるべく子供も親も分かりやすく、覚えやすくということで、教育委員会内でプロジェクトチームを作って考えているところでございます。</p>
<p>(佐藤守委員) わかりました。</p>
<p>(上原委員長) 他にございますか。</p>
<p>(佐藤郁子委員) 真ん中の「インプルーブ6」、学習指導の連携のところに関係するんですが、連携が小・小、中・中、小・中に及ぶということで、非常に多岐にわたって効果が期待されると思うんですが、西と東に学校が広がっているということもありますので、非常にケースが多くなると思うのですが、これも学力向上推進チームの先生が中心になってやっていくということなののでしょうか。</p>
<p>(指導主事) 小中学校間の学習の連携ということで、小・小連携、中・中連携もございまして、このイメージとしましては、ひとつの中学校区というふうに考えていた</p>

<p>できればと思います。中学校区で小学校がまたがる場合がございます。ある小学校で、</p>
<p>A中学校とB中学校に行く。そうなった時には、隣の中学校同士の連携が必要となっ</p>
<p>てくるということが、まず1点です。さらに、同じ中学校へ行く小学校同士の連携も</p>
<p>必要になってきます。このため、小・小連携、中・中連携も入れさせていただきたい</p>
<p>と考えております。また、この推進につきましては、左側の学力向上推進チームでは</p>
<p>なく、各学校で推進委員を作ってください、そのエリアごとに代表者で集まってど</p>
<p>のように連携していくかを進めていきますので、左側の推進チームと重なることのな</p>
<p>いようにと考えております。</p>
<p>(佐藤郁子議員) そうしますと、下にあります実践研究指定校が中心となってやっ</p>
<p>ていくと考えてもよろしいのでしょうか。</p>
<p>(指導主事) はい。</p>
<p>(佐藤郁子委員) ありがとうございます。</p>
<p>(上原委員長) 他にございますか。</p>
<p>(植木委員) 昨年度の苫小牧市学力向上プランの評価を、どのように教育委員会と</p>
<p>指導室は捉えているのかという点と、今年度は、昨年度を踏まえて改善した点があり</p>
<p>ましたら教えていただきたいことと、平成27年度が目玉といったら語弊があります</p>
<p>けれども、3つとも恐らく関連して力を入れているところだと思いますが、特に力を</p>
<p>入れているところはどこなのか、教えていただきたいと思います。</p>
<p>(指導主事) 昨年度からの反省を踏まえて改善点ということでしたが、各学校の方</p>
<p>にアクションプランについて評価をとって集計したところでございます。そのような</p>
<p>中で、今年度の反省イコール次年度の改善点になってくるのかなと思うのですが、左</p>
<p>側の授業改善につきましては、やはりハンドブックが徹底されていないというところ</p>
<p>がございましたので、そのために推進チームを組織することで、ハンドブックを使っ</p>
<p>た授業改善を徹底させていく、これが改善点であり、今年度の1つの大きな目玉でご</p>
<p>ざいます。真ん中の小中学校間の学習指導の連携につきましては、今まで中学校区ご</p>
<p>とに会議を持っていたのですが、先程も申し上げたとおり、小学校がまたがってしま</p>

う、そうするとA中学校とB中学校に行ったときにやっていることが違うと迷ってしま
う。そこで、今年度はエリアを少し拡大して、小学校・中学校を含めて5、6校に
なりますが、その中で一貫した学習指導をやっていくというところが、目玉であり改
善点でございます。右側の学校教育と家庭教育の連携ですが、昨年度、教育委員会と
して働きかけが一番少なかったかなと反省しております。昨年度「ほ・む・す・く」
を作成したことが成果といえるのですが、これが浸透しているかというところが反省
しているところでございます。やはり、家庭に対して合言葉になるような3か条を作
りたいということが、今年度の大きな改善点であり目玉であるというふうに捉えてお
ります。
(植木議員) ありがとうございます。
(上原委員長) 他にございますか。
(佐藤守委員) 指導主事等の単Pへの派遣ということで、今までなかった良いこと
だとは思いますが、具体的にどのようにPTAと関わっていくことを考えているのか
お聞きしたいと思います。
(指導主事) 単Pと指導主事との関わりということでご質問でしたが、昨年度も2
校ばかり指導主事が訪問して、PTAに対してこのように家庭学習を進めてください
などとお話をしましたが、やはり、学校から説明するのと市教委から説明するのとで
は、若干異なる部分がございます。学校としても、先生が説明するより外部の者が説
明する方が説得力があるということもございまして、やってみたところ非常に成果が
ございまして、今年度は拡大してより多くの学校で実施していきたいと考えておりま
す。
(上原委員長) 他にございますか。質疑が他にないようですので、原案どおり決定
することよろしいでしょうか。
(一同「はい」の声)

－原案どおり決定－

第3号 平成26年度 苫小牧市特別支援教育振興委員会答申について

(学校教育課長) ー平成26年度 苫小牧市教育特別支援教育振興委員会答申につ
いての説明ー

(上原委員長) 質疑に付します。私の方から何点か。まず、付帯事項に関連して、
やまなみ分校閉校という言葉を使っています。この答申の中身からいくと、啓北中学
校を改築する際に、恐らく平成30年か31年だと思いますが、特別支援学級を開設
する時に山なみ分校を閉校するという結論と捉えていいのかお伺いしたいと思ひます。
検討した委員会としては、山なみ分校が閉校するので、それに伴って教育委員会の方
の体制を整備しなさいという内容なのか、確認したいのですが。

(教育部長) 現在は、山なみ分校は啓北中学校の分校という扱いです。啓北中学校
には特別支援学級が存在しないということで、改築時にあわせて特別支援学級を開級
するという計画です。本校に特別支援学級がある場合は、分校の存在が必要なくなる
ので、その場合は山なみ分校を閉校せざるを得ない状況になります。現在、山なみ分
校につきましては、障害の程度に応じて、市内全域から中学生が山なみ分校を選択し
て通学している状況です。従来から要望しております平取の特別支援学校の分校設置、
あるいは苫小牧移転ということも含めて、現在苫小牧にお住まいの障害程度の重い子
供達の扱いが、果たして本校に開級した特別支援学級で対応できるのかどうか、非常
に難しい問題となります。付帯事項についても、山なみ分校をどうこうするというよ
りも、障害の程度に応じた学習環境を準備できるのかが、一番大きな問題になると思
ひます。現在、そういった部分を含めて、市内全体で個々の程度に応じた学級措置が
可能かどうかというところを、特別支援の中学校、それから小学校を含めた形で、検
討を進めているところでございます。

(上原委員長) わかりました。
(教育長) 補足の説明ですが、議会でも論議があったのですが、今閉校するという ことではなくて、啓北中学校を改築する時に、特別支援学級を作ってくださいという 要望が多いものですから、仮に作るとしたら、山なみ分校を閉校しなければならない。 その時に、どのような課題があるのですかというお尋ねをしたわけです。方向性とし ては、仮に課題がクリアできなければ特別支援学級の開設をやめて山なみ分校を継続 するという選択肢もありますが、今のところ方向性をはっきり出せないで、いろいろ と検討しているということになります。
(上原委員長) わかりました。他にございますか。
(佐藤守委員) 沼ノ端中学校への特別支援学級の設置が急がれるということなんで すが、空き教室がないのでどうしようかということで、沼ノ端中学校をどうするか、 答えはすぐに出ないのだと思いますが、基本的にどのように進めていく考えをお持ち なのか、聞きたいと思います。
(教育長) いろいろな方法があると思います。例えば、プレハブを増築するですと か、新しい学校を造るですとか、いろいろな方向性がある中で、優先順位としては沼 ノ端中学校について先に方向性を示しなさいという解釈をしています。今年中に総合 教育会議もあるものですから、建物のことも含めて今年中に結論を出して、沼ノ端中 学校の特別支援学級についてはこういう方向でいきますと決めたいと思います。ただ、 予算付けのこともありますので、すぐに着手して開級するというものではありません。
(佐藤守委員) わかりました。
(上原委員長) 他にございますか。質疑がないようであれば、原案どおり決定する ことでよろしいでしょうか。
(一同「はい」の声)
—原案どおり決定—

第4号 弱視学級の開設及び通級指導教室の通学区域の変更について

(学校教育課長) ー弱視学級の開設及び通級指導教室の通学区域の変更についての説明ー

(上原委員長) 質疑に付します。ないようですので、原案どおり決定することよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

ー原案どおり決定ー

第5号 苫小牧市学校評議員の委嘱について

第6号 教育委員会職員の人事異動に係る協議について

第7号 教職員の処分について (内申)

(上原委員長) 議案第5号、第6号及び第7号につきましては、人事案件等でございますので教育委員会会議規則第21条の規定により、秘密会としたいと思いますがよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

ー原案どおり決定ー

6 協 議
なし。
7 そ の 他
(1) 教職員の人事異動に係る内申について
(教育長) -教職員の人事異動に係る内申についての報告-
(上原委員長) 質疑に付します。何かご質問等ございますか。それでは、質問等ないようですので、質疑を終結いたします。その他、何かお持ちの方いらっしゃいますか。
(一同「なし」の声)
8 委員会閉会の宣言 (上原委員長)・・・16時28分